

平成6年度(1994年度)

日田市埋蔵文化財年報

平成6年度

日田市埋蔵文化財年報

日田市教育委員会



は　じ　め　に

21世紀を向かえるにあたり日田市では、新しい都市づくりを目指した多様な事業が計画・実施されています。特に、大分自動車道の開通は、日田市の拠点都市づくりの大きな起爆剤となっています。

しかし一方では、こうした開発の増加は埋蔵文化財を取り巻く状況が急速に変化させ、発掘調査の急増を招くことになり、消えゆく遺跡の数も多くなっています。

このような中で、平成6年秋にはこれまで長期にわたる発掘調査が行われてきました小迫辻原遺跡が、国指定史跡の答申を受けたことは誠に喜ばしい限りです。

毎年行われる埋蔵文化財の調査は、新たに歴史を掘り起こすとともに、市民に大きな夢とロマンを抱かせています。その成果は、教育・文化の発展に十分寄与しているものと確信しております。

本書は、平成6年度に本市教育委員会が行った埋蔵文化財保護活動をまとめあげたもので、その普及・啓発を目的に発行したものです。

この書物が多くの皆様方にご高覧頂き、日田市の埋蔵文化財保護行政になお一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成8年3月31日

日田市教育委員会教育長

加 藤 正 俊

例 言

- 1、本書は平成6年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。
- 2、本書には大分県教育委員会が日田市内で行った埋蔵文化財保護事業の一部も合わせて掲載している。
- 3、発掘調査等の資料については、日田市埋蔵文化財センターにて保管・管理している。
- 4、受領図書は平成6年4月1日から平成7年3月31日の間に日田市教育委員会に寄贈された書物を掲載し、併せて日田市立博物館あての書物も掲載した。
- 5、表・裏表紙の写真は三和教田B遺跡の発掘調査場所の空中写真と同遺跡発見の円面硯である。
- 6、なお、本書の執筆は担当者が分担して行い、編集は担当者間で協議し永田裕久が行った。

目 次

はじめに

I 平成6年度埋蔵文化財調査事業	1
1) 平成6年度の埋蔵文化財調査の概要	1
2) 発掘調査・確認調査の概要	4
3) 試掘調査・立会調査の概要	20
II 平成6年度の埋蔵文化財普及・啓発事業	30
1) 現地見学会	30
2) シンポジウムの開催	31
3) 展示会の開催	32
4) 指定文化財の紹介	33
III 受領図書一覧	37
平成6年度埋蔵文化財関係刊行物の寄贈一覧	37

I 平成6年度埋蔵文化財調査事業

1) 平成6年度の埋蔵文化財調査の概要

平成6年度は日田市の埋蔵文化財行政にとって大きな転換期となった年でもあった。それは、これまで埋蔵文化財保護業務を行っていた市立博物館から文化財部門が切り離されて、文化課が新たに新設され、その業務を文化財係で行うようになったことである。文化課新設には、近年日田市内において公共事業や民間開発に先立つ埋蔵文化財の発掘調査の増加に十分な対応をすることと、国史跡に答申された小迫辻原遺跡や装飾古墳であるガランドヤ古墳群、咸宜園跡などの史跡の保存・整備事業の推進がその要因である。

平成6年度に文化課宛てに提出された埋蔵文化財関係の申請書は、公共事業・民間開発等を含めて31件である。申請の原因については道路建設・公園等施設の建設整備事業などの公共事業のほか、宅地の造成・流通基地建設・ショッピングセンター建設・福祉施設建設など民間開発による事業などである。

この31件の申請の中で、8ヶ所の遺跡については発掘調査・確認調査を行い、20ヶ所の遺跡で試掘調査・立ち会い調査を行った。また大分県教育委員会によって発掘調査が1ヶ所、試掘調査が1ヶ所の計2ヶ所の調査が行われた。

発掘調査・確認調査の行われた8ヶ所の遺跡の概要については各遺跡の調査概要を参照いただき、以下では各遺跡で明らかになった主な内容を時代別にまとめる。

旧石器時代遺跡では本格的な調査は行われず、三和教田遺跡B地点でナイフ形石器などの遺物が出土している。また、牧原遺跡では縄文時代後期の土坑から片足部分とみられる土偶が発見された。これまで市内では隈山遺跡の土偶が知られているが、発掘調査では初めての例となる。

弥生時代の遺跡では、三和教田遺跡B地点において後期の竪穴住居跡6棟と集落を取り囲む環濠もしくは条溝の一部が確認された。これまで市内では小迫辻原・平島・徳瀬・佐寺原遺跡等で環濠もしくはそれらに相当する溝が検出されているが、幅約5m、深さ約1.5mと溝としては大規模なものである。この他、台地上に立地する谷ノ久保遺跡では弥生時代前期の土坑が8基、葛原遺跡H地点では竪穴住居跡2棟や土坑がそれぞれ発見されており、また三和教田遺跡A地点からは、弥生時代終末期の土坑が確認されている。

古墳時代の遺跡では平島横穴墓群で、後期の横穴墓が約80基以上が調査された。市内では吹上・羽野・夕田横穴墓群などの平島横穴墓群とほぼ同時期の横穴墓が調査されているが、調査例としては最大のものである。横穴墓からは数多くの須恵器や土師器等の供献土器、鉄製品、装身具が出土しており、横穴墓に近接する沖積地に存在する同時期の集落が調査された平島遺跡との関係が注目される。この他、赤迫遺跡A地点では後期の流路より多数の下駄をはじめとした木器が、また同B地点からは中期の石蓋土壙墓・横穴墓群が調査された。

古代の遺跡では三和教田遺跡B地点より奈良時代と考えられる円面硯が出土している。遺跡では同時期の建物跡も調査されており、公的施設が存在した可能性が考えられる。

中世・近世ではこれまで古墳とされていた千人塚古墳が、牧原遺跡での確認調査によって室町時代（15世紀）に構築された中世の塚であることが判明した。さらに牧原遺跡では近世期に熊本へと通じていた小国街道の一部も確認されている。また、史跡咸宜園跡では、秋風庵の解体修理に伴う確認調査で、天明元年（1781）の建築時より現在にいたるまでの建物の変遷が明らかになった。

日田市教育委員会調査

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
(発掘調査・確認調査)						
1	赤迫遺跡	大字田島字畑江	公園施設	9,500㎡	0412~1105	
2	史跡咸宜園跡	大字南豆田字中城	史跡整備	150㎡	0801~0331	継続
3	葛原遺跡H地点	大字西有田字葛原	ポンプ場建設	423㎡	1216~0121	
4	谷ノ久保遺跡	大字三和字坂ノ辻	福祉施設建設	500㎡	0718~0729	
5	平島横穴墓群	大字東有田字神田	工場造成	8,000㎡	0207~0331	継続
6	牧原遺跡	大字日高字牧原	農道建設	2,150㎡	0801~0125	
7	三和教田遺跡A地点	大字三和字教田	宅地造成	4,000㎡	0427~0630	
8	三和教田遺跡B地点	大字三和字鮎町	宅地造成	6,000㎡	0718~1031	
(試掘調査・立ち会い調査)						
9	今泉遺跡	大字友田字今泉	道路建設	18㎡	0830~0913	
10	馬形遺跡	大字有田字馬形	宅地造成	146㎡	0914~1005	
11	有田塚ヶ原遺跡群	大字東有田字石ヶ迫ほか	工場造成	760㎡	0826~0930	
11-①	平島横穴墓群地区	大字東有田字平島	"	32㎡	"	
11-②	石ヶ迫地区	大字東有田字石ヶ迫	"	32㎡	"	
11-③	祇園原地区	大字東有田字祇園原	"	136㎡	"	
11-④	尾漕2号墳地区	大字東有田字ヲコギ	"	16㎡	"	
11-⑤	塚ヶ原地区	大字東有田字塚ヶ原	"	112㎡	"	
11-⑥	長迫地区	大字東有田字長迫	"	112㎡	"	
11-⑦	クビリ地区	大字東有田字クビリ	"	32㎡	"	
11-⑧	柿ノ木原地区	大字東有田字柿ノ木原	"	80㎡	"	
11-⑨	小原地区	大字東有田字小原	"	88㎡	"	
11-⑩	尾漕地区	大字東有田字尾漕	"	120㎡	"	
12	日田糸里渡里地区	大字渡里字清水	商業施設建設	110㎡	0318	
13	日田糸里花月地区	大字花月字上手添	校舎改築	96㎡	0523~0531	
14	峰崎遺跡	大字西有田字釣	ポンプ場建設	40㎡	0313~0320	
15	中ノ前遺跡	大字山田字年ヶ谷	鉄塔建設	8㎡	0607	
16	朝日宮ノ原遺跡	大字山田字下原	鉄塔建設	16㎡	0606	
17	山田原遺跡	大字山田字下原	鉄塔建設	40㎡	0601~0603	

大分県教育委員会調査

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
(発掘調査・確認調査)						
1	徳瀬遺跡	大字友田徳瀬	住宅改築	12,000㎡	1001~0110	弥生(集落)
2	日田糸里遺跡	大字吹上	校舎増築	70㎡	1044	

※日田市教育委員会分の番号については次の調査概要の番号に対応する。



平成6年度日市内埋蔵文化財調査位置圖 (1/50,000) ●市教育委員会 ■県教育委員会

2) 発掘調査・確認調査の概要

1 赤迫遺跡 (AKS)

所在地 大字山鳥字畑江602番地外
調査期間 940412～941105
開発面積 約90,000㎡
調査面積 約9,500㎡
調査年次 2年次
遺跡の時代 縄文・弥生・古墳時代、中世・近世
遺跡の内容 集落跡・墓地
担当者 行時志郎・松下桂子

—市営大原総合運動公園建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部、中尾原台地南端付近より派生する舌状に延びる尾根上とその眼下に細長く形成された谷状沖積地一帯に存在している。

調査の概要

今年度の調査では、A地点において縄文時代晩期の包含層、弥生時代後期～古墳時代前期の溝状遺構・土坑、古墳時代後期の竪穴住居跡・流路跡、奈良時代の溝状遺構が確認された。流路跡からは、7世紀前半の土器を下限とする遺物に混じって、下駄や鍬の柄・斧の柄・曲物などの木器が多数検出された。B地点においては古墳時代中期の石蓋土壙墓6基・横穴墓4基、そして近世の土壙墓1基・土坑3基が確認された。石蓋土壙墓からは鉄剣・刀子・鉄鍬が副葬品として、また横穴墓からは人骨に刀子・鉄鍬・砥石が確認された。その他にはC地点より中世の柱穴群、D地点からは近世の土坑1基・柱穴が確認された。

まとめ

今回の調査ではA地点において木器が多数確認された。木器は古墳時代の農具が中心であり、なかでもそれらに混じって発見された下駄は市内で初めての出土例である。またB地点の1号土壙墓には長さ約1mの鉄剣が副葬されており、これら土壙墓群の中心的人物の墓とみられる。

A地点全景（真上より）



B地点全景（真上より）



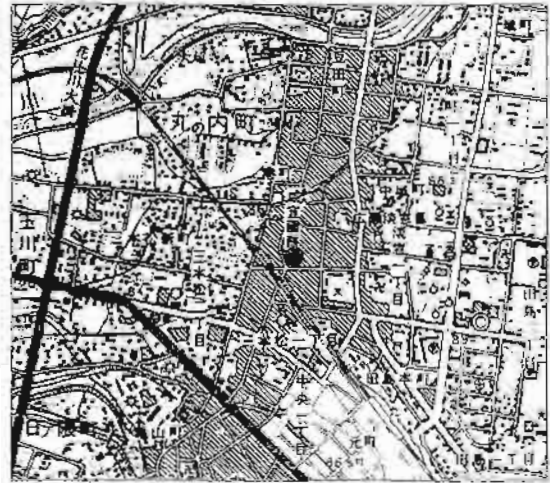
B地点1号土墳墓
鉄剣・人骨出土状況



2 史跡咸宜園跡 (KAG)

—史跡整備に伴う確認調査—

所在地 大字南豆田字中城100-1
調査期間 940801～950331
開発面積 — m²
調査面積 150m²
調査年次 2年次
遺跡の時代 江戸時代
遺跡の内容 私塾跡
担当者 上居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

史跡咸宜園跡は日田盆地のほぼ中心部に位置しており、江戸時代の儒学者広瀬淡窓が創設した私塾として知られており、現在は国史跡に指定されている。敷地内には、秋風庵・遠思樓・書蔵庫・井戸等の建物が現存している。

調査の概要

「秋風庵」は、広瀬淡窓の伯父にあたる広瀬月化が天明元年(1781)に隠居所として建てられたもので、文化14年(1817)に淡窓が咸宜園を興してからはその居宅となった建物である。「秋風庵」の解体修理と並行しておこなわれた確認調査によって、この建物が大きく4期にわたって変遷する過程が明らかとなった。秋風庵の建設(1期)から7年後の天明7年(2期)・明治時代(3期)・さらに昭和時代(4期)にそれぞれ増改築が行われている。

まとめ

今回の調査によって、広瀬淡窓の日記である「懐舊樓筆記」に記載されている秋風庵の間取りとほぼ一致することがわかりその後の、現在に至る間の何度も増改築を繰り返した過程が明らかとなった。日記には六畳の玄関・書院、五畳の茶の間、三畳の茶室・土間などの間取りが記載されており、今回の解体修理でもほぼ記録と一致することがわかった。



発掘調査状況（東から）



発掘調査状況（北から）

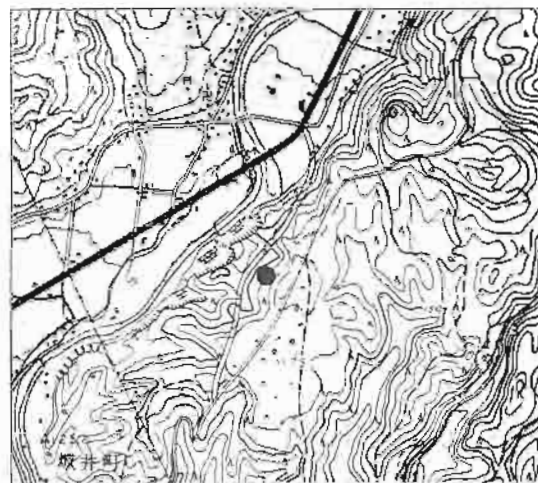


トイレ遺構検出状況（北から）

3 葛原遺跡H地点 (KZH)

所在地 大字西有田字葛原
調査期間 941216～950121
開発面積 518㎡
調査面積 423㎡
調査年次 3年次
遺跡の時代 弥生時代・中世
遺跡の内容 集落跡
担当者 行時志郎・森山敬一郎

—簡易水道ポンプ場建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地北部の沖積地との比高差約30mを測る葛原台地上の西端に位置している。昭和62年度の発掘調査では弥生時代前期の土坑をはじめ、古墳時代後期の竪穴住居跡などが確認されている。また、今回の調査地点の北約200mには葛原古墳が存在している。

調査の概要

今回は簡易水道建設に伴う調査で、対象面積は小規模であったが、調査区内からは竪穴式住居2軒・土坑13基、掘立柱建物跡1棟がそれぞれ発見された。竪穴住居跡については、住居内より出土した土器から弥生時代前期後半～後期前半の時期と考えられる。また土坑については、城ノ越式土器の甕などが出土しており、前期末から中期初頭頃の遺構が中心とみられる。

まとめ

今回の調査区は昭和62年度に道路建設に伴い調査した地点のすぐ南隣りにあり、土坑などその続きと見られる遺構が多数検出された。しかし葛原遺跡では弥生時代の竪穴住居跡が発見されたのは今回がはじめてであり、この台地上においても集落の存在が確認された。

葛原遺跡H地点（東から）



葛原遺跡H地点
土坑完掘状況



葛原遺跡H地点
土坑遺物出土状況



4 谷ノ久保遺跡

所在地 大字三和字坂ノ辻
調査期間 940718～940729
開発面積 約9,570㎡
調査面積 約500㎡
調査年次 1年次
遺跡の時代 弥生時代前期
遺跡の内容 集落跡
担当者 土居和幸



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地北部の通称山田原台地の北側に位置し、標高約129mを測る台地の先端部上にあたる。これまで、市内でも広大な面積を有する山田原台地において確認された遺跡の広がり、主に市街地を望む東あるいは両側に分布しており、今回の遺跡の存在は特異な例ともいえる。

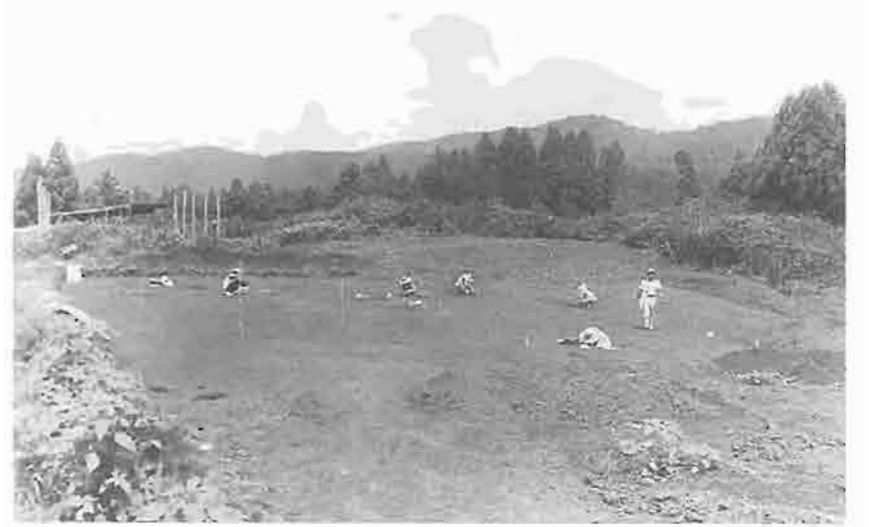
調査の概要

今回の調査では弥生時代の上坑が8基確認された。8基の上坑のいずれについても遺物の出土量が少なく、詳細な時期の検討は難しいが、全体的には前期の範疇に収められるものと考えられる。

まとめ

今回の調査では土坑の確認しかされておらず、竪穴住居跡や建物は存在しない。この山田原台地の南側一角には、小迫辻原遺跡・朝日宮ノ原遺跡・後迫遺跡といった弥生時代の大規模集落の存在が確認されており、集落の規模の違いが立地条件を大きく左右していることがうかがえる。

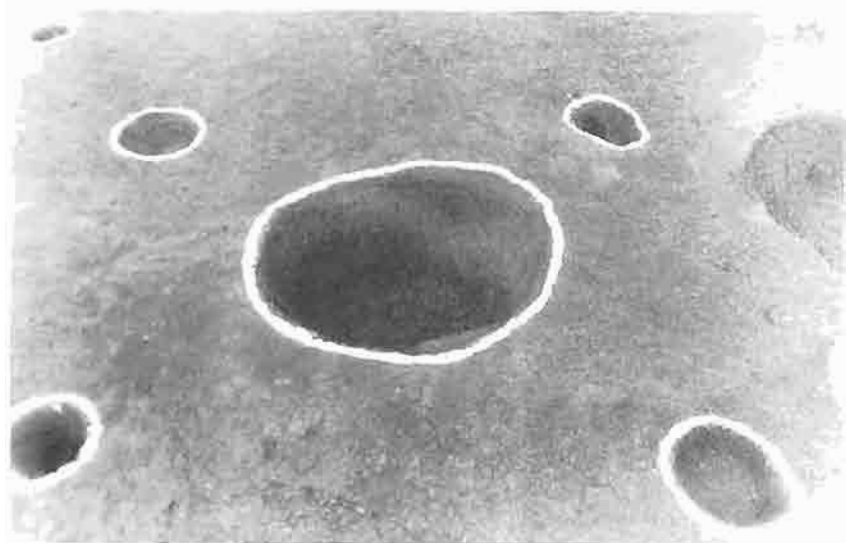
発掘調査作業風景（西から）



発掘調査状況（南から）



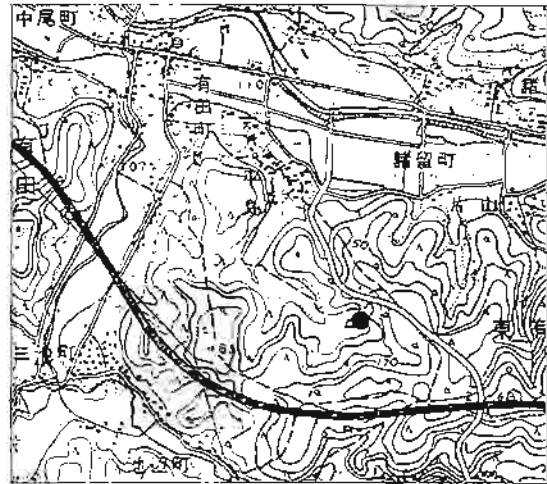
建物の発掘状況（南から）



5 平島横穴墓群

所在地 大字東有田字神田
調査期間 950207～950331
開発面積 72,000㎡
調査面積 約8,000㎡
調査年次 1年次
遺跡の時代 古墳時代後期
遺跡の種類 墓
担当者 行時志郎・松下佳子・森山敬一郎

—ウッドコンビナート建設に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部の有田川沿いに広がる沖積地から、南部の丘陵に入り込む小谷の最深部に立地している。遺跡の南には6世紀後半に築造された横穴式石室を主体部にもつ有田塚ヶ原古墳があり、また谷の入り口付近には平島古墳や弥生時代後期の環濠集落や古墳時代中期から後期の集落跡が確認された平島遺跡などが存在している。

調査の概要

調査は溜池のある北部崖面から東部崖面までの間の斜面を機械を使って遺構検出を行った。当初は開口していた横穴墓の数から30基程度を予想していたが、表土を除去した結果、横穴墓の玄室が陥没している状況が相次いで確認され、横穴墓群の規模は予想を大きく上回る結果となった。さらに各横穴墓の墓道や玄室内からは多数の副葬品や供献土器が出土した。

まとめ

横穴墓群は高い位置に築かれ短い墓道をもつものと、それより低い位置に築かれ比較的長い墓道をもつものの二種類に分けられる。前者は敷石はなく玄室には赤色顔料を塗布するなどの特徴を持っており、出土遺物から後者より一時期古く、またこれらの玄室や墓道の大部分は失われており、このことは後者の横穴墓を造成していく時に一部破壊されたためと考えられる。

これに対して低い位置に造られた横穴墓群は、すべてに敷石をもち、玄室に赤色顔料を塗布した形跡はなく、墓道や玄室からは夥しい数の供献土器をはじめとして鉄刀・鉄鏃などの副葬品や金環・銅釧・玉類などの装身具が出土した。形態は玄室の天井部が高く、奥壁を三角形の形にそろえる特徴を持ち、出土遺物については全体的に6世紀後半から7世紀初頭頃とほとんど同じ時期であることから、これらの横穴墓群は共同墓地として規格的・計画的に造営が行われたと考えられる。

平島横穴墓群発掘調査作業風景
(南方向より)



横穴玄室完掘状況



横穴玄室遺物出土状況

6 牧原遺跡

所在地	大字日高字牧原
調査期間	940801～950125
開発面積	145,392㎡
調査面積	2,150㎡
調査年次	1年次
遺跡の時代	縄文後期・弥生終末・近世
遺跡の内容	墓・道
担当者	松下桂子



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東南部、玖珠川と大山川に挟まれた標高約152mの丘陵頂部に位置する。遺跡のすぐそばには中世の牧原千人塚、また大山川を挟んで西側には奈良時代の集落跡である手崎遺跡が存在している。

調査の概要

調査では縄文時代後期と思われる土坑1基、弥生時代終末～古墳時代初頭の方形周溝墓または古墳が4基・木棺墓1基・石棺墓2基・土坑13基、また近世の遺構として日田から熊本県小国へと通じていた小国街道の一部が確認されている。

遺物としては縄文時代の土坑内より土足の部分と推定される土偶片が確認された。その他にも土師器や刀子・鉄鏃が墳墓より副葬品として出土した。

まとめ

弥生時代終末期～古墳時代初頭の墳墓群が今回の調査で確認されたが、当該時期の集落跡が付近にはこれまで確認されていないため、今後この地域の調査が待たれるところである。また土偶片については、発掘調査で発見されたものとしては日田盆地では初めてのものである。

調査区全景（南より）



3号方形周溝墓（真上より）



1号木棺墓完掘状況



7 三和教田遺跡A地点 (MKD)

所在地 大字三和字教田2468ほか
調査期間 940427～940630
開発面積 4,957㎡
調査面積 約4,000㎡
調査年次 1年次
遺跡の時代 弥生・古墳
遺跡の種類 集落跡
担当者 上居和幸・森山敬一郎

—宅地造成に伴う発掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地北部の花月川左岸の標高約116mの低い丘陵上に位置している。遺跡の背後には標高約140mの通称山田原台地が控えており、南側には水田が広がる。

調査の概要

今回の調査において確認された遺構は、土坑が約40基である。土坑の時期は弥生時代終末より古墳時代初頭にかけてのものと思われる。遺物として土器・石器が認められた。

まとめ

今回確認された土坑には不整形または円形を呈する2種類が存在するが、不整形の土坑については特に掘方が一定していない。土坑内からは遺物として土器が出土するものの破片が大半であり、またその量も少ない。唯一土坑のひとつから、在地の長胴甕が2個体重ねた状態で出土している。

遺跡の地山は粘質の強い土質で、近年まで瓦の材料として粘土を採取していたこともあり、また近接するB地点では同時期の集落跡も発見されていることから、これらの土坑は当時の粘土採掘坑の痕跡の可能性もある。

発掘調査空中写真（真上より）



発掘調査遺構空中写真（真上より）

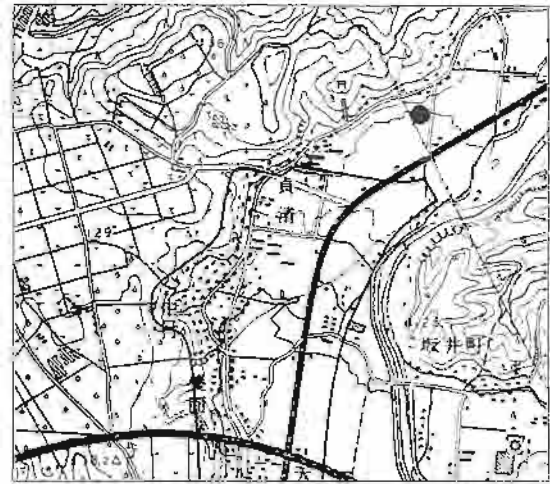


発掘調査作業風景



8 三和教田遺跡B地点 (MKD)

所在地 大字三和字鮎町959ほか
調査期間 940718～941031
開発面積 約6,519㎡
調査面積 約6,000㎡
調査年次 1年次
遺跡の時代 弥生・古墳・中世
遺跡の種類 集落跡
担当者 土居和幸・森山敏一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地北部の花月川の左岸、標高約110mの低い丘陵部に位置している。遺跡の北西約400mには三和教田遺跡A地点が位置しており、またこの丘陵の背後には通称山田原台地が迫っており、丘陵そのものは馬蹄形をなしている。

調査の概要

今回の発掘調査では、まず弥生時代後期の環濠が確認された。濠は後期中頃に掘削され、後半には埋没している。幅は約5mを越えており逆台形を呈す。濠の形態については確認されていない。濠の内側からは竪穴式住居跡8軒と掘立柱建物4棟が確認された。特に遺跡の東側の調査区からは用途不明の円形状の周溝造構が確認されている。

また、6世紀後半の1号溝の埋土上面からは小型の円面硯が出土しており、それらと同時期と見られる2間×2間の総柱建物2棟などが確認されている。

まとめ

環濠集落の発見例としては、小迫辻原遺跡、平島遺跡、徳瀬遺跡などがあるが、濠の規模からみれば、最も大きな環濠（条溝）といえる。

また、小型の円面硯については、奈良時代頃の遺物とみられ、同時期の建物跡も存在することから、公的な施設が存在していた可能性がある。

発掘調査空中写真（真上より）



弥生・古墳時代の竪穴住居跡（真上より）



弥生時代環濠の遺物出土状況
（東から）



3) 試掘調査・立会調査の概要

9 今泉遺跡

—市道北豆田三郎丸線自歩道設置事業に伴う試掘調査—

所在地 大字友田字今泉
調査期間 940830～940913
開発面積 9,600㎡
調査面積 18㎡
遺跡の時代 古墳・中世・近世
遺跡の種類 水田遺構
担当者 土居和幸・行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地北部花月川右岸の河岸段丘状に位置している。遺跡の北側標高約140mの台地上には弥生時代の集落跡・成人用甕棺墓をはじめとした墳墓群が確認された吹上遺跡が存在している。また遺跡の周辺には後醍醐天皇勅願とされる岳林寺や片山磨崖種子がある。今回の調査は、開発予定地内に3ヶ所のトレンチを設定し掘り下げ、写真撮影・測量を行った後に埋め戻しを行った。結果、古墳時代から中世・近世にかけての水田跡が確認され、遺物として須恵器・土師器・青磁・石器が出土した。遺構・遺物の確認により遺跡の存在が明らかとなり、今後当地域に於いては開発行為以前に事前の調査の必要性が認められる。



発掘作業風景



発掘作業風景

10 馬形遺跡

—宅地造成に伴う試掘調査—

所在地 大字有田字馬形
調査期間 940914～941005
開発面積 6,000㎡
調査面積 146㎡
遺跡の時代 弥生・古墳
遺跡の種類 竪穴式住居・溝
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地東部、有田川の支流の一つである求来里川左岸の丘陵上に位置している。付近には、赤迫遺跡・求来里平島遺跡、大原八幡宮の前身と考えられている元大波羅社が存在している。

調査では開発予定地内の6地点に計20ヶ所のトレンチを設定し掘り下げ作業を行った。その結果A・B地区のトレンチ内からは遺構は確認されていないものの、若干の土器が出土した。C・D・E地区においても同様であるが、地形がU字形の小谷状を呈しており、横穴墓の存在が十分考えられる。ただし、D地区においては遺構として土坑が確認されている。F地区では、遺構として竪穴式住居が1軒確認された。

今回の調査によって、遺構・遺物が確認され、また場所によっては横穴墓の存在も考えられることより、平成7年度に発掘調査を行うこととした。



馬形遺跡近景



発掘作業風景

11 有田塚ヶ原遺跡群

—ウッドコンビナート建設事業に伴う試掘調査—

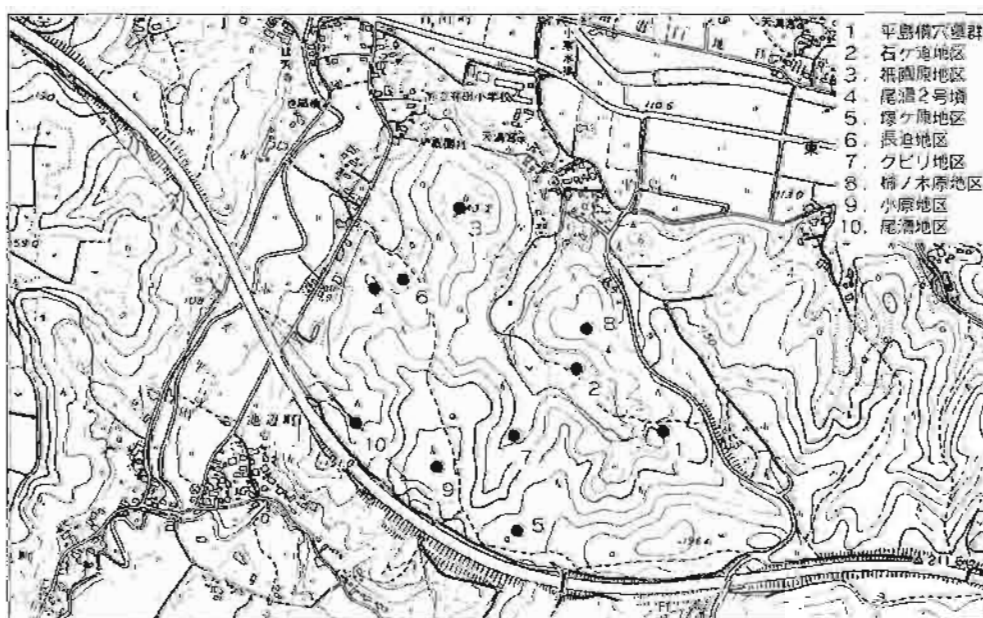
所在地	大字東有田字石ヶ追ほか
調査期間	940826～940930
開発面積	418,000㎡
調査面積	760㎡
遺跡の時代	縄文・弥生・古墳・奈良・平安中世・近世
遺跡の種類	古墳・集落跡・水田
担当者	行時志郎・松下桂子・森山敬一郎

調査の概要

遺跡群は日田盆地東部、有田川沿いに細長く開けた沖積地の南側に広がる丘陵地に存在している。

ウッドコンビナート（木材加工団地）建設事業は、この丘陵内に点在する複数の周知遺跡を含んだ地区を造成することから、これらの遺跡の存在する地区を総括する名称として有田塚ヶ原遺跡群と呼び、試掘調査は遺跡の存在する可能性の高い10ヶ所の地区に分けて行った。

調査は当初は機械により試掘調査を行う予定であったが、伐採や用地取得ができていなかったために、各地区の中に2m×4mのトレンチを設定して地山まで手作業による掘り下げ作業を実施することになった。以下各地区ごとに調査の概要をのべる。



有田塚ヶ原遺跡群位置図(1/15,000)

11-① 平島横穴墓群

この横穴墓群は丘陵の間に深く開析された谷地の最深部に、急峻な崖面を掘り込んで築造されている。

ここは調査前より横穴墓の存在が知られていたが、調査前に行った分布調査の結果、延10基を越える横穴墓の開口がみられたことから、この数はさらに増えるものと予想された。したがって試掘調査では横穴墓の範囲とおおよその数を確認することを目的として、斜面や平坦部に7ヶ所のトレンチを設定し掘り下げを行った。

その結果、現在山林として利用されていた溜池北側の平坦部に設定したトレンチ内から、須恵器の甕や坏類をはじめとする多数の土器が出土した。しかし溜池の南側や東側の斜面からは遺構や遺物は全く確認されず、横穴墓の範囲は谷の北側しか存在しないことが推測された。

こうした試掘結果をもとに、平成6年度よりこの横穴墓群の発掘調査を実施することとした。

11-② 石ヶ迫地区

この地区は平島横穴墓群の存在する谷奥から現在の平島集落のある谷の出入り口付近までの一帯を調査区とした。

この谷の奥には古墳時代の横穴墓群が存在し、また谷の入り口付近には弥生時代後期の環濠・竪穴住居跡、古墳時代の竪穴住居跡が発見された平島遺跡があり、これらと関係のある遺構の存在する可能性が推測された。

調査前は谷の北側は微高地となっており、主に畑地として利用され、南側は低湿地となり、水田耕作が行われていた。

試掘調査では、これらについてそれぞれトレンチを設定し掘り下げ作業を行った。このうち微高地上のトレンチからは、2メートル間隔で並ぶ建物の柱穴とともに奈良・平安時代の多数の須恵器・土器片等が出土した。また、水田内のトレンチからは、水田盤土と耕作土が重層的に検出され、微高地上で確認された時期とほぼ同じ時期の遺物が出土した。

これらの試掘調査の結果から、この谷一帯には遺構が広く分布していることが明らかとなり、平成7年度に発掘調査を実施することにした。

11-③ 祇園原地区

この地区は求来里川と有田川沿いに広がる沖積地に向かって舌状に張り出した標高約160メートルの丘陵上を調査区とした。

丘陵上は南側に向かってわずかに高くなっているが、全体的にはほぼ平坦な地形となっている。調査前は畑や山林、墓場として利用されており、墓場はいずれも江戸から明治時代のもので、丘陵東部や北部、南部の斜面に近い位置に3ヶ所に分かれて造られていた。

試掘調査では、これらの畑や山林の中にトレンチを10ヶ所に設定し掘り下げ作業を行った。

このうち丘陵南側のトレンチからは、遺構、遺物の出土は全くなかったが、北側では建物の柱穴や上坑などととも弥生時代後期の土器が出土した。

この試掘調査結果から、この地区は平成7年度に発掘調査を実施することにした。

11-④ 尾漕2号墳

古墳は、求来里川沿いに形成された沖積地を見下ろす比高差約20メートルを測る通称小原と呼ばれる台地より派生する尾根上鞍部に築造されている。

古墳の周辺には小谷を挟んで南側に5世紀の横穴式石室を持つ尾漕古墳、求来里川を挟んで西には凝灰岩の石材を用いた石棺または竪穴式石室を主体部に持つ中尾1・2号墳や多数の土壙墓・石棺墓群が発見された大迫遺跡があり、沖積地周辺の尾根上には5世紀頃の墳墓群が点在してみられる。

尾漕2号墳は現況で墳丘長約15メートル、高さ約3メートルの円墳である。調査は、尾漕2号墳の周囲にトレンチを設定し周溝の有無の確認を行った。

その結果、トレンチ内より幅約1.2メートル、深さ約0.8メートルの周溝が確認された。トレンチ内からは遺物として須恵器が出土している。また古墳に使用されたと考えられる石材が立った状態で墳丘東部より検出された。

これらの調査結果をもとに平成7年度に発掘調査を実施することにした。

11-⑤ 塚ヶ原地区

この地区は石ヶ迫地区の南部に広がる丘陵上を調査区とした。

調査区のさらに南側には、平成5年度に九州横断自動車道建設に伴う発掘調査で6世紀後半の横穴式石室を主体部に持つ有田塚ヶ原古墳や弥生時代の上坑群が発見された有田塚ヶ原遺跡が存在している。このことから塚ヶ原地区においては、その続きの遺構の存在が考えられた。

試掘調査では、山林として利用されている調査区内に計9本のトレンチを設定し掘り下げ作業を行った。

その結果、柱穴が数個確認されたほか、土器の小片が数点出土した。

これらの調査結果から、塚ヶ原地区について、平成7年度に発掘調査を行うことにした。

11-⑥ 長迫地区

この地区は、求来里川沿いに広がる沖積地右岸に少し入り込んだU字形をした谷地一帯を調査区とした。

この地区の南側には平成4年度に九州横断自動車道建設に伴い発掘調査が行われた尾漕遺跡があり、ここからは古墳時代中期から後期にかけての竪穴住居跡や15世紀の明銭を多数副葬した土壙墓が確認されている。

試掘調査では、山林や畑地として利用されている開発予定地内にトレンチを設定し掘り下げ作業を行った。

その結果、古墳及び奈良時代の竪穴住居跡が発見されたほか、平安・鎌倉時代とみられる柱穴群が確認された。またトレンチ内からは多数の須恵器や土師器等の遺物が出土した。

これらの調査結果から、この地区は平成8年度に発掘調査を行うことにした。

11-⑦ クビリ地区

この地区は石ヶ迫地区から南の丘陵に向かって分枝した小谷の中を調査区とし、その中に計10ヶ所のトレンチを設定し、掘り下げ作業を行った。

その結果、谷の中央付近にあたる比較的平坦な地形をした場所から奈良・平安時代の遺物が多数出土したほか、柱穴や焼上跡なども確認された。

試掘調査の結果から、この地区は平成7年度に発掘調査を実施することにした。

11-⑧ 柿ノ木原地区

この地区は平島横穴墓群の存在する谷を見下ろす部丘陵上を調査区とし、トレンチを計10ヶ所設定して掘り下げ作業を行った。

その結果、遺物はわずかに出上したが遺構は確認されなかった。

11-⑨ 小原地区

この地区は、求來里川沿いに形成された沖積地を見下ろす通称小原と呼ばれる平坦な丘陵上に11ヶ所のトレンチを設定して掘り下げを行った。

その結果、遺構・遺物は確認されなかった。

11-⑩ 尾漕地区

この地区は、求來里川沿いに形成された沖積地の東部に小さく入りくむ谷地を調査区とした。

この谷の最深部は九州横断自動車道建設に伴って発掘調査が行われ、奈良時代の遺物等が多数出上っている他、入口付近には同じく九州横断自動車道建設により発掘された尾漕遺跡があり、古墳や奈良時代の竪穴住居跡などが発掘されていることから、その関連の遺構が存在する可能性があった。

試掘調査では、この谷の中に計11ヶ所のトレンチを設定し掘り下げ作業を行ったが、調査の結果、トレンチ内より須恵器・土師器等の遺物は認められたが、遺構は確認されなかった。

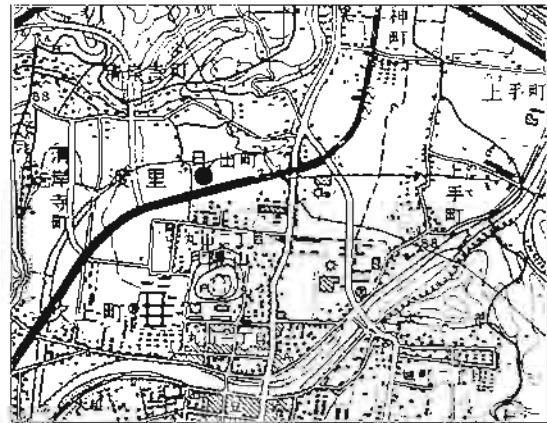
12 日田条里渡里地区

所在地 大字渡里
調査期間 940318
調査面積 110㎡
担当者 土居和幸

調査の概要

開発予定地内に機械を入れて調査を行ったが、遺構の確認と遺物の出土はなかった。

—スーパーマーケット建設に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

13 日田条里花月地区

所在地 大字花月字土手添
調査期間 940523~940531
調査面積 96㎡
担当者 土居和幸

調査の概要

工事予定地域において12本のトレンチを設定したが、遺構の存在は確認されなかった。

—戸山中学校校舎新增改築事業に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)



発掘作業風景



発掘作業風景

14 峰崎遺跡

所在地 大字西有田字釣1272-2
調査期間 950313~950320
調査面積 40㎡
担当者 行時志郎

調査の概要

当該事業予定地内においては白磁・土師器の数点が遺物として確認されたものの遺構は認められなかった。

—農業集落排水緊急整備事業に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

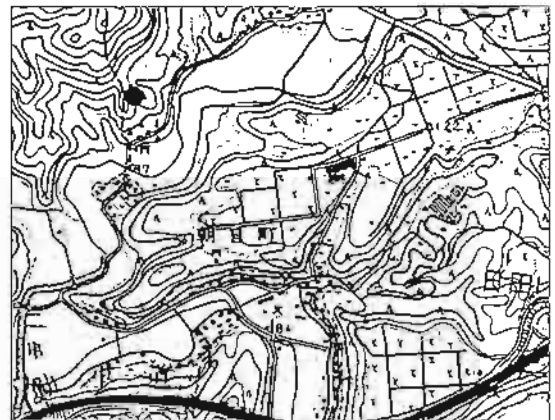
15 中ノ前遺跡

所在地 大字山田字年ヶ谷
調査期間 940607
調査面積 8㎡
担当者 土居和幸

調査の概要

開発予定地内において1本のトレンチを設定したが遺構の存在は確認されなかった。

—高圧送電線建設に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)



発掘作業風景

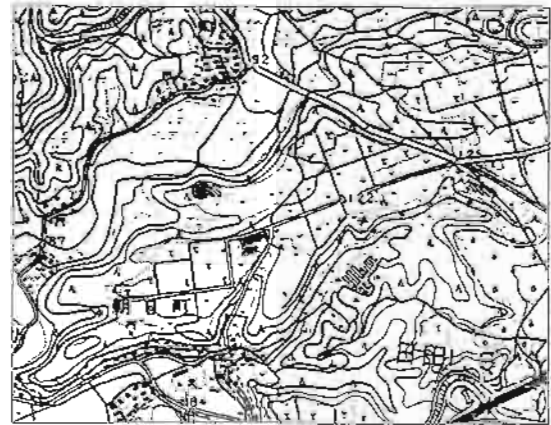


トレンチ完掘状況

16 朝日宮ノ原遺跡

所在地 大字山田字下原
調査期間 940606
調査面積 16㎡
担当者 土居和幸

— 高圧送電線建設に伴う試掘調査 —



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

開発予定地内において2本のトレンチを設定したが遺構の存在は確認されなかった。



発掘作業風景



トレンチ発掘状況

17 山田原遺跡

所在地 大字山田字下原
調査期間 940601～940603
調査面積 40㎡
担当者 上居和幸

—高圧送電線建設に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

開発予定地内において5本のトレンチを設定したが遺構の存在は確認されなかった。



トレンチ発掘状況



トレンチ発掘状況

II 平成6年度の埋蔵文化財普及・啓発事業

1) 現地見学会

平成6年12月4日、小迫辻原遺跡が国史跡の答申を受けたのを機に日田市教育委員会が現地説明会を午前10時から開催した。遺跡は、豪族居館の場所だけ調査後埋め戻さずにはいたが、保存のため埋め戻す方針から、今回が最後の見学会となった。これには日田市民を中心として約260人を越える見学者が訪れた。

見学会では、古墳時代初めの居館跡を前にして、その規模や意義についての説明の他にも同時期と考えられる環濠集落や1号条溝との関係について発掘調査を担当した職員によって詳しい説明が行われた。



小迫辻原遺跡現地見学会風景



小迫辻原遺跡現地見学会風景



小迫辻原遺跡現地見学会風景

2) シンポジウムの開催

平成6年12月4日、小迫辻原遺跡現地に於いて見学会が行われた後、同日午後1時より日田市文化センター視聴覚室にて「小迫辻原遺跡とその時代～日田・玖珠地域の古代遺跡～」と題して、日田考古学同好会（会長 原田勝宏）・小迫辻原遺跡研究会（会長 中川千年）の共催でミニシンポジウムが開催され、日田市域を中心とした100名の一般市民の参加のもと行われた。

シンポジウムは2部構成で行われ、第1部では日田市・天瀬町・玖珠町教育委員会の各担当者がそれぞれの地域の古代遺跡についての報告を行った。また、第2部では「小迫辻原遺跡とその時代」・「小迫辻原遺跡の保存と活用」の2題についてパネルディスカッションが行われ、おもに参加者の意見を聞きながら遺跡の今後の活用について活発な意見が出された。

3) 展示会の開催

市教育委員会が平成5年度の発掘調査成果を広く一般に知ってもらうための特別展「日田・玖珠地域の地下の遺宝展－平成5年度の発掘調査から－」を、平成6年11月1日～30日まで日田市立博物館1階展示室、12月5日～16日までの12日間日田市役所1階玄関ホールにおいて開催した。この展示会では日田市の発掘調査成果に加え、天瀬・玖珠・九重町での発掘調査された遺跡を含む、話題となった6遺跡の遺跡の紹介や遺物の展示を行った。

展示品には、日田市から小迫辻原遺跡・徳瀬遺跡・夕田横穴墓群の各遺跡を紹介。それぞれの遺跡から出土した「大領」銘の墨書土器や後漢鏡、ジョッキ形の須恵器等を展示。このほか、天瀬町中尾原遺跡、玖珠町角牟礼城跡、九重町釘野千軒遺跡の紹介と出土品の展示を行った。今回の展示品には、釘野千軒遺跡で発見された九州では初めての『瑞花双鴛鴦文八棱鏡』などの資料が公開された。

いずれも日田・玖珠地域の歴史を語る上で貴重な資料で、弥生時代から中・近世までの幅広い時代の遺物展示に、開催中は博物館で450名の入館者、市役所で150名の見学者があった。



展示会風景
市役所1階玄関ホールにて



展示会風景
市役所1階玄関ホールにて

4) 指定文化財の紹介

小迫辻原遺跡（国指定史跡－平成6年11月18日答申－）

遺跡は大字小迫字小迫・辻原の通称辻原と呼ばれる台地上に位置する。大分自動車道建設に伴い昭和58年度より継続して行われた発掘調査では、旧石器時代より近世にいたる間の様々な時代の遺構や遺物が発見された。

その中でも弥生時代末から古墳時代初頭にかけてのそれぞれ3つの環濠集落と居館跡は注目され、一つの独立した台地上より環濠集落と居館跡が同時に確認され、互いが発展・展開する過程が顕著にみられる遺跡は全国的にも例がない。わが国の国家成立期の様相を考える上で貴重な遺跡として約82,000㎡が指定の答申を受けた。

このほか、この遺跡では整然と配置された古代の建物跡や「大領」銘の墨書土器、中世の館跡なども発掘されている。



小迫辻原遺跡空中写真
(大分自動車道より上が指定範囲)



3基並ぶ居館空中写真
(写真手前より3・2・1号居館)

ガランドヤ古墳出土品（県指定有形文化財－平成7年3月10日告示－）

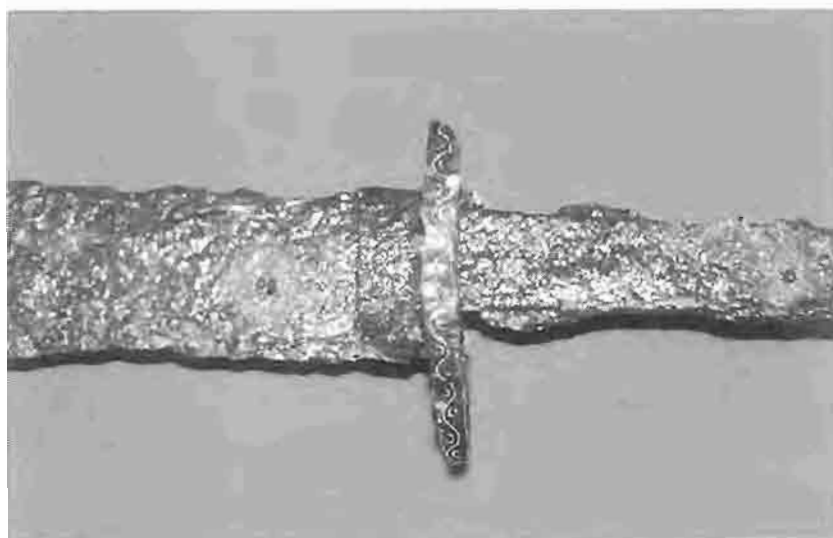
古墳時代後期（6世紀）に築造されたガランドヤ古墳群は、市内石井町三丁目の筑後川左岸の段丘上に位置する3基からなる古墳群で、穴観音古墳・法恩寺山古墳群とともに県内を代表する装飾壁画古墳として知られていた。

昭和59・60年の発掘調査では、豊富な遺物や新たな壁画が確認され、平成5年度には1・2号古墳が国史跡の指定を受けている。

今回指定された古墳出土の遺物は、総数773点を数える。1号墳から出土した須恵器・土師器・馬具・鉄鏃・装身具など606点と2号墳から出土した須恵器・土師器・馬具・鉄刀・鉄鏃・鏡・装身具など167点の合計1379点である。なかでも、2号墳出土の直刀の鏢の縁には、一条の波文と「C」字状の紋様が銀で象嵌されており、県内では2例目の発見である。



1号墳出土の須恵器
（写真左から埴、高坏、罍、杯）



2号墳出土の長刀
（鏢の縁には銀で象眼が施されている）

朝日宮ノ原遺跡4号中世墓出土品（県指定有形文化財－平成7年3月10日告示－）

今回指定を受けた総数81点の出土品は、市内朝日町の宮原台地上に位置する朝日宮ノ原遺跡4号中世墓から発掘された資料である。

昭和63年の発掘調査で発見された4号中世墓は、長さ約2.6m、幅約1.5m、深さ約30cmの隅丸長方形の墓坑床面に木炭が敷きつめられ、その上に木棺が据えられていた。出土品は被葬者の頭の位置から青磁碗・合子・湖州鏡・和鉄・紅皿など、被葬者の胸付近から念珠、木棺に使われた鉄釘などが発見された。

こうした出土品のうち、完形の青磁碗2点は龍泉窯、合子は福建省北部の窯で製造されたもの。変形六花形の湖州鏡には、「湖州名家ノ二叔照子」と読める銘がみられ、表面には布の痕跡が残る。和鉄は全長16.5cmで、頭の部分は「U」字状に仕上げ、把部に糸を巻き付けた痕跡が残る。水晶製の数珠玉は大小の丸玉や洋梨形の玉など43個。このほか、鉛製と思われる2個の小型容器や竹籠製容器がある。



4号中世墓の遺物出土状況



4号中世墓出土遺物
（上青磁碗、下左より湖州鏡、合子、念珠）

牧原千人塚（市指定史跡－平成7年3月31日告示－）

牧原千人塚は、大字日高字牧原2722-1番地に所在する。玖珠川と大山川に挟まれた丘陵の頂部に位置するこの塚は、これまでは古墳と考えられてきたが、平成6年の発掘調査成果により中世期の塚であることが判明した。

塚は現状で南北、東西とも約17mの正方形で、高さは約2m。塚の周囲には幅約5m、深さ約50cmの溝が巡っていたことが確認されている。

平坦な塚の中央には、一辺が約80cm、高さ約2.8mの方柱状の角塔婆が立っており、その周囲4面にはそれぞれ梵字が一文字ずつ彫られている。また、塚の南側には関連すると思われる直径約1.5m、高さ約0.5mの小さな塚が見られる。

この塚は周囲の溝の中から出土した遺物から室町時代（15世紀）に造られたと考えられ、市内では現存する唯一の中世塚でもある。



牧原千人塚近景



角塔婆近景

III 受領図書一覧

平成6年度埋蔵文化財関係刊行物の寄贈一覧表

書名	寄贈者	刊行年
福島県		
1. 桑折町史9	桑折町史出版委員会	1994
千葉県		
2. 国立歴史民俗博物館研究報告第56集 共同研究「日本出土鏡データ集成」2 弥生・古墳時代遺跡出土鏡データ集成	国立歴史民俗博物館	1994
3. 日本出土の貿易陶磁 東日本編1 国立歴史民族博物館博物館資料調査報告書5	〃	〃
4. 日本出土の貿易陶磁 東日本編2 国立歴史民族博物館博物館資料調査報告書5	〃	〃
5. 日本荘園データ1 (畿内・東海道・東山道) 国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書6	〃	1995
6. 日本荘園データ2 (北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道・宍道島) 付：荘園関係文献目録	国立歴史民俗博物館博物館 秦野市立板土手古墳展示館	1994
7. 秦野の古代遺跡1 平成6年度秋の特別展	〃	1995
8. 西瀬横穴墓 平成6年度企画展	〃	1995
石川県		
9. 石川県立歴史博物館年報 第4号 平成4・5年度版	石川県立歴史博物館	1994
10. 石川県立歴史博物館紀要7	〃	〃
静岡県		
11. 史跡 山中城跡	三島市教育委員会	1994
滋賀県		
12. 太田遺跡発掘調査報告書 国道161号(西大津バイパス)建設に伴う大津市埋蔵文化財調査報告書8	大津市教育委員会	1994
京都府		
13. 京都府埋蔵文化財情報 第51号	京都府埋蔵文化財調査研究センター	1994
14. 京都府埋蔵文化財情報 第52号	〃	〃
15. 京都府埋蔵文化財情報 第53号	〃	〃
16. 京都府埋蔵文化財情報 第54号	〃	〃
17. 京都府埋蔵文化財情報 第55号	〃	〃
18. 加悦町指定文化財 旧丸岡家住宅移築復原工事報告 加悦町文化財調査報告第19集	加悦町教育委員会	1994
19. 加悦町の中世城館跡 加悦町文化財調査報告第21集	〃	〃
20. 第2回加悦町文化財シンポジウム はにわの成立と展開 -日本各地におけるはにわの導入と展開-	〃	〃
兵庫県		
21. のじきく文化財だより 第26号	財団法人のじきく文化財保護研究財団	1994
22. のじきく文化財だより 第27号	〃	〃
23. のじきく文化財だより 第28号	〃	〃
24. のじきく文化財だより 第29号	〃	〃
奈良県		
25. 第5回特別展 再現葛城の豪族居館を推理する	香芝市 二上博物館	1994
26. 奈良国立文化財研究所年報	奈良国立文化財研究所	1994
27. 古代の水田を考える「田」 帝塚山考古学談話会第500回記念	帝塚山考古学研究所	1994
28. 第7回 考古学におけるパーソナルコンピュータ利用の現状	〃	〃
島根県		
29. 石田遺跡 一般国道米子伯太線道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	島根県教育委員会	1994
30. 明子谷遺跡・島田黒谷II遺跡・島田黒谷III遺跡・猫ノ谷遺跡 一般国道9号(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書VI	〃	〃
31. 石田遺跡・カンボウ遺跡・国吉遺跡 一般国道9号(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書VII	〃	〃
山口県		
32. 山口大学校内遺跡調査研究年報Ⅻ	山口大学埋蔵文化財史料館	1994
愛媛県		
33. 特別展図録 出作遺跡とそのマツリ 「教育の町」宣言30周年記念 -古墳時代松山平野の祭祀と政治-	愛媛県松前町教育委員会	1994
34. 江口貝塚II -縄文後晩期編- 愛媛大学法部考古学研究所報告第3冊	愛媛大学法文学部考古学研究室	1994
福岡県		
35. 福岡市埋蔵文化財年報 Vol.7 1992年度	福岡市教育委員会	1994
36. 席田遺跡群7 -大谷遺跡第4次調査- 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第357集	〃	〃
37. 麦野B遺跡II -麦野B遺跡群第3次発掘調査報告- 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第358集	〃	〃
38. 原遺跡I 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第359集	〃	〃
39. 奈多砂丘B遺跡I 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第360集	〃	〃
40. 中南部(3) -那珂遺跡群第29次調査・麦野C群第1次調査報告- 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第361集	〃	〃
41. 板付周辺遺跡調査報告書(16) -F-51調査地点- 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第362集	〃	〃

書名	寄贈者	刊行年
42. 五十川赤目遺跡 -南区五十川に所在する五十川遺跡群の第1次調査- 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第363集	福岡市教育委員会	1994
43. 那珂遺跡9 -那珂遺跡群第33次調査報告- 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第364集	"	"
44. 那珂10 -那珂遺跡群第32次、34次調査報告- 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第365集	"	"
45. 那珂11 -二重環濠集落の調査- 福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第366集	"	"
46. 那珂遺跡12 -那珂遺跡群第40次調査の報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第367集	"	"
47. 比恵遺跡群(14) -比恵遺跡群第47次発掘調査報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第369集	"	"
48. 博多41 -博多遺跡群第70次発掘調査報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第370集	"	"
49. 博多42 -博多遺跡群第72次発掘調査概報- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第371集	"	"
50. 中村町遺跡1 -中村町遺跡群第1次調査報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第373集	"	"
51. 藤崎遺跡9 -藤崎遺跡第22・23次調査- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第376集	"	"
52. 有田・小田部 第19集 福岡市埋蔵文化財調査報告書第377集	"	"
53. 有田・小田部 第20集 福岡市埋蔵文化財調査報告書第378集	"	"
54. 飯倉F遺跡1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第379集	"	"
55. 山崎古墳群 -第2次調査- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第380集	"	"
56. 東入部遺跡群1 -東入部遺跡群第4次調査報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第381集	"	"
57. 東入部遺跡群2 -東入部遺跡群第5次発掘調査報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第382集	"	"
58. 東入部遺跡群3 -東入部遺跡群第6次調査の報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第383集	"	"
59. 田村遺跡IX -第8次・11次・13次調査報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第384集	"	"
60. 田村遺跡X -第12次調査報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第385集	"	"
61. 飯倉唐木遺跡 -飯倉C遺跡第2次調査- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第387集	"	"
62. 鯉崎遺跡1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第388集	"	"
63. 今宿遺跡 -今宿遺跡第1・3次調査報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第389集	"	"
64. 飯氏遺跡群2 国道202号線今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告V 福岡市埋蔵文化財調査報告書第390集	"	"
65. 富地原上瀬々浦 宗像市文化財調査報告書第38集	宗像市教育委員会	1994
66. 富地原川原田 宗像市文化財調査報告書第39集	"	"
67. 古代宗像市をさぐる 宗像市文化財講演会資料5	"	1995
68. 高雄地区遺跡群 高雄地区所在の埋蔵文化財発掘調査報告書 太宰府市の文化財第22集	太宰府市教育委員会	1994
69. 太宰府条坊跡VI -第138次調査- 太宰府市の文化財第23集	"	"
70. 水城跡 太宰府市の文化財第24集	"	"
71. 特別史跡 水城跡 目で見る太宰府市の文化財1	"	"
72. 安武地区遺跡群VII 泉宮安武地区圃場整備事業関係に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第87集	久留米市教育委員会	1994
73. 寺ノ西遺跡 八女市文化財調査報告書第30集	八女市教育委員会	1994
74. 室岡工業団地遺跡II 八女市文化財調査報告書第31集	"	"
75. 鍛冶屋遺跡 八女市文化財調査報告書第32集	"	"
76. 高野町遺跡 八女市文化財調査報告書第33集	"	"
77. 八女市南部地区泉宮圃場整備事業地内 埋蔵文化財調査概報5 八女市文化財調査報告書第34集	"	"
78. 八女市農村活性化住環境整備事業地内 埋蔵文化財調査概報1 八女市文化財調査報告書第35集	"	"
79. 山鹿田屋遺跡 芦屋町文化財調査報告書第5集	芦屋町教育委員会	1994
80. 山鹿貝塚・夏井々浜貝塚収集資料 芦屋町文化財調査報告書第6集	"	"
81. 本郷築塚1号墳 大刀洗町文化財調査報告書第6集	大刀洗町教育委員会	1994
82. 観音堂遺跡群II 福岡県筑紫郡那珂川町大字片組所在遺跡群の調査 那珂川町文化財調査報告書第33集	那珂川町教育委員会	1994
83. 穂波地区遺跡群 -福岡県嘉穂郡穂波町大字高田所在遺跡群の調査- 穂波町文化財調査報告書第9集	穂波町教育委員会	1994
84. 水巻町遺跡等詳細分布調査報告書 水巻町文化財調査報告書第2集	水巻町教育委員会	1994
85. 九州大学埋蔵文化財調査報告 -九州大学筑紫地区遺跡群(第III冊)-	九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室	1994
86. 九州文化史研究紀要 第39号	[比較考古学部門関係抜刷集]	"
87. 第12回特別展 九州の貝塚 -貝塚が語る縄文人の生活-	北九州市立考古博物館	1994
佐賀県		
88. 増田遺跡群II -増田遺跡3区・都留遺跡1区- 佐賀市文化財調査報告書第50集	佐賀市教育委員会	1994
89. 千住遺跡・牟田寄遺跡 佐賀市文化財調査報告書第51集	"	"
90. 大野原遺跡 (5区の調査) 佐賀市文化財調査報告書第52集	"	"
91. 友貞遺跡 (1区~6区の調査) 佐賀市文化財調査報告書第53集	"	"
92. 浦田遺跡 佐賀市文化財調査報告書第54集	"	"
93. 御手水遺跡・琵琶原遺跡・川久保松原遺跡・川久保遺跡 佐賀市文化財調査報告書第55集	"	"
94. 大西屋敷遺跡I -1区の調査- 佐賀市文化財調査報告書第56集	"	"
95. 小薄上窯・年木谷3号窯 -町内古窯跡群詳細分布調査報告書 第7集-	有田町教育委員会	1994

書名	寄贈者	刊行年
熊本県		
96. 池田遺跡 熊本県文化財調査報告第140集	熊本県教育委員会	1994
97. 深水谷川遺跡 - 広域営農団地農道整備事業にかかる埋蔵文化財の調査 - 熊本県文化財調査報告第141集	"	"
98. ワク下石遺跡 熊本県菊池台地における縄文時代後期集落の調査 県営畑地帯総合土地改良事業に伴う文化財調査 熊本県文化財調査報告第144集	"	"
99. 国指定史跡 塚坊主古墳 熊本県文化財整備報告第1集	"	"
100. 横山古墳 熊本県文化財整備報告第2集	"	"
101. つつじヶ丘横穴群 発掘調査概報I	熊本市教育委員会	1994
102. 平成6年度後期企画展 はにわの考古学	熊本県立装飾古墳館	1994
大分県		
103. 府内城三ノ丸遺跡II 大分県共同庁舎前広場モニュメント建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	大分県教育委員会	1994
104. 大分県埋蔵文化財年報2 1992年度版	"	"
105. 宇佐地区遺跡群発掘調査概報 小塚遺跡10次調査・虚空蔵寺跡8次調査・切寄瓦窯跡確認調査	宇佐市教育委員会	1994
106. 朝地地区遺跡群発掘調査概報VII	朝地町教育委員会	1994
107. 田村遺跡・池在遺跡・古市遺跡・一万田館跡 朝地地区遺跡群発掘調査報告書II	"	"
108. 下野遺跡文化財発掘調査概報	犬飼町教育委員会	1994
109. 飯塚遺跡 国東町文化財調査報告書第11集	国東町教育委員会	1994
110. 三光地区遺跡群発掘調査概報III	三光村教育委員会	1994
111. 森山遺跡 (株)岡田洋ラン農場移転工事に伴う発掘調査概報	"	"
112. 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 1993年度	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1994
113. 第13回特別展 「豊かなる海-瀬戸内と豊後-」	大分市歴史資料館	1994
114. 大分市歴史資料館年報 (平成5年度)	"	"
115. 大分市歴史資料館ニュース第28号	"	"
116. 大分市歴史資料館ニュース第29号	"	"
117. 別府大学紀要 第35号	別府大学	1994
118. 別府大学紀要 第36号	"	1995
119. アジア歴史文化研究所報 第12号	別府大学アジア歴史文化研究所	1994
120. 「大分県の文化財」市町村別索引試稿	後藤正二	"
宮崎県		
121. 田向・平谷遺跡 県道向山・日之影線道路改良事業関係埋蔵文化財調査報告書	宮崎県教育委員会	1994
122. 野久首遺跡・平原遺跡・妙見遺跡 九州縦貫自動車道(人吉～えびの間)建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書第2集	"	"
123. 宮崎県文化財調査報告書 第37集	"	"
124. 本地原遺跡 都市計画街路事業八幡通線道路改良工事に伴う発掘調査報告書	"	"
125. 三納地区遺跡群・城ノ下遺跡・柳原遺跡・志戸平遺跡(2次) 鬼付女草墓地周辺障害防止対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	"	"
126. 谷合第1遺跡・谷合第2遺跡・大塚遺跡 沿海南部地区広域農道建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)	"	"
127. 中尾・牛牧地区遺跡群・元野地区遺跡群・中尾地区遺跡群・船引地区遺跡群・西都原地区遺跡群 平成5年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告	"	"
128. 鳩箇(東霧島寺社)遺跡 東霧島第4砂防ダム建設に伴う発掘調査報告書	"	"
129. 永山原遺跡 霧島南部2期地区広域農道建設工事に伴う発掘調査報告書	"	"
130. 西階城周辺遺跡(第1次)・八田遺跡第2地点・櫻谷遺跡・上池遺跡・延岡城内遺跡E地点 平成5年度市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 延岡市文化財調査報告書第12集	延岡市教育委員会	1994
131. 原田・上江遺跡群・法光寺遺跡II 上江・池島地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要 えびの市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集	えびの市教育委員会	1994
132. 田代地区遺跡群・上田代遺跡 中山間地域農村活性化総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要 えびの市埋蔵文化財調査報告書第14集	"	"
133. 野尻町遺跡詳細分布調査報告書 野尻町文化財調査報告書第6集	野尻町教育委員会	1994
134. 門川町遺跡詳細分布調査報告書 門川町文化財調査報告書第2集	門川町教育委員会	1994
135. 研究紀要 <創刊号>	高岡町教育委員会・天ヶ城歴史民俗資料館	1994
136. 橋山第1遺跡C地区調査報告書 高岡町埋蔵文化財調査報告書第4集	高岡町教育委員会	"
137. 高岡町内遺跡 遺跡発掘調査事前総合調査報告書 高岡町埋蔵文化財調査報告書第5集	"	"
138. 蔵野遺跡 高岡町埋蔵文化財調査報告書第6集	"	"
鹿児島県		
139. 鹿児島大学構内遺跡群元団地L-11・12区 鹿児島大学稲盛会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1994
沖縄県		
140. 那覇市の文化財 平成5年度	那覇市教育委員会	1994
その他		
141. 考古学ジャーナル7 NO377	ニュー・サイエンス社	1994

平成6年度埋蔵文化財関係刊行物の寄贈一覧（追加分）

品名	寄贈者	刊行年
神奈川県		
142. 古代からのメッセージ 平成5年度特別展 東海大学校地内遺跡とその出土遺物	秦野市立榎土手古墳展示館	1993
143. 考古資料の見方 平成5年度夏休み特別展	"	"
144. 眠りからさめた古代II ー第一自動車道遺跡（秦野地区）出土品展ー	"	"
静岡県		
145. 三島市文化財年報ー第5号ー	三島市教育委員会	1993
146. 三島市文化財発掘調査報告II 向山古墳・榑田遺跡・確認調査	"	"
147. 金沢遺跡 日榮マンション建設に伴う発掘調査	"	"
京都府		
148. 史跡蛭子山・作山古墳整備事業報告書 史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場事業） 加悦町文化財調査報告第15集	加悦町教育委員会	1992
奈良県		
149. 文化財学報 第11集	奈良大学文学部文化財学科	1993
福岡県		
150. 草場古墳群ー第3次調査の報告書ー 福岡市埋蔵文化財調査報告書第301集	福岡市教育委員会	1992
151. 田村遺跡Ⅷ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第302集	"	"
152. 吉武遺跡群V ー私道野方金武線建設に伴う埋蔵文化財の調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第303集	"	"
153. 太田遺跡（Ⅲ） ー私道野方・金武線新設道路建設に伴う発掘調査報告書 福岡市埋蔵文化財調査報告書第304集	"	"
154. 拾六町平田遺跡 ー第1次調査ー 福岡市埋蔵文化財調査報告書第305集	"	"
155. 徳永遺跡（Ⅱ） 国道202号線今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 福岡市埋蔵文化財調査報告書第306集	"	"
156. 有田・小田部 第15集 福岡市埋蔵文化財調査報告書第307集	"	"
157. 有田・小田部 第16集 福岡市埋蔵文化財調査報告書第308集	"	"
158. 山ノ鼻1号墳 福岡市埋蔵文化財調査報告書第309集	"	"
159. 入部Ⅲ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第310集	"	"
160. 国史跡 野方遺跡 環境整備報告書 福岡市埋蔵文化財調査報告書第313集	"	"
161. 国史跡 板付遺跡 環境整備報告書 福岡市埋蔵文化財調査報告書第314集	"	"
162. 鴻臚館跡Ⅱ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第315集	"	"
163. 名島城跡1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第318集	"	1993
164. 雀居遺跡1 第2次調査の報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第322集	"	"
165. 那珂7 那珂遺跡第19次調査報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第323集	"	"
166. 飯倉C遺跡2 飯倉遺跡群C地区第3次調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第336集	"	"
167. 原遺跡7 第16次調査の報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第337集	"	"
168. 藤崎遺跡8 藤崎遺跡第20・21次調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第338集	"	"
169. 有田・小田部 第17集 第160・161次調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第339集	"	"
170. 有田・小田部 第18集 福岡市埋蔵文化財調査報告書第340集	"	"
171. 熊本遺跡群1 福岡市埋蔵文化財調査報告書第341集	"	"
172. 岩本遺跡 岩本遺跡群第3次調査報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第342集	"	"
173. 入部Ⅳ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第343集	"	"
174. 羽根戸古墳群2 福岡市埋蔵文化財調査報告書第345集	"	"
175. 羽根戸古墳群4 羽根戸古墳群B群5号墳の調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第347集	"	"
176. 野方久保遺跡Ⅱ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第348集	"	"
177. 拾六町平田遺跡2 第2次調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第349集	"	"
178. 青木遺跡2 青木遺跡第2次発掘調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第350集	"	"
179. 鉦原古墳群2 C群第1次・2次、E群第1次調査の報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第351集	"	"
180. 飯氏遺跡群1 国道202号線今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書 福岡市埋蔵文化財調査報告書第352集	"	"
181. 山ノ鼻2号墳 福岡市埋蔵文化財調査報告書第353集	"	"
182. 能古島 ー能古島遺跡発掘事前総合調査報告書ー 福岡市埋蔵文化財調査報告書第354集	"	"
183. 鴻臚館跡Ⅲ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第355集	"	"
184. 席田青木遺跡1 ー空港前区画整理に伴う埋蔵文化財の調査ー 福岡市埋蔵文化財調査報告書第356集	"	"
185. 八所宮 宗像市文化財調査報告書第31集	宗像市教育委員会	1991
186. 王丸清勢 宗像市文化財調査報告書第33集	"	"
187. 王丸清勢Ⅱ 宗像市文化財調査報告書第35集	"	1992
188. 平等寺向原1 宗像市文化財調査報告書第37集	"	"
189. 明星寺南地区遺跡群 飯塚市文化財調査報告書第17集	飯塚市教育委員会	1993
190. 三沢権道遺跡 小都市文化財調査報告書第82集	小都市教育委員会	1993
191. 菊又地区遺跡群 小都市文化財調査報告書第83集	"	"

書名	寄贈者	刊行年
192. 津古遺跡群1 小都市文化財調査報告書第84集	小都市教育委員会	1993
193. 三国地区遺跡群2 小都市文化財調査報告書第85集	"	"
194. 本郷畑築地遺跡 大刀洗町文化財調査報告書第2集	大刀洗町教育委員会	1993
195. 大刀洗町内遺跡群 大刀洗町文化財調査報告書第3集	"	"
196. 九州大学埋蔵文化財調査報告 九州大学筑紫地区遺跡群(第一冊)	九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室	1992
197. 九州大学埋蔵文化財調査報告 九州大学筑紫地区遺跡群(第二冊)	"	1993
佐賀県		
198. 貴別当神社遺跡Ⅳ 千代田町文化財調査報告書第16集	千代田町教育委員会	1992
199. 平成3年度町内遺跡確認調査 大和町文化財調査報告書第19集	大和町教育委員会	1993
200. 王林寺遺跡 第1次調査	大和町文化財調査報告書第21集	"
201. 大願寺二本松遺跡 大和町文化財調査報告書第22集	"	"
202. 史跡谷口古墳保存修理事業報告書 浜玉町文化財調査報告書第2集	浜玉町教育委員会	1991
熊本県		
203. 久保遺跡 熊本県文化財調査報告第125集	熊本県教育委員会	1993
204. 白鳥平A遺跡 九州縦貫自動車道(人吉～えびの)建設に伴う埋蔵文化財調査 熊本県文化財調査報告第127集	"	"
205. 夏女遺跡 熊本県文化財調査報告第128集	"	"
206. 御幸本部古屋敷遺跡Ⅰ 加勢川河川改修に伴う埋蔵文化財調査報告書 熊本県文化財調査報告書第129集	"	"
207. 島廻遺跡 九州縦貫自動車道(人吉～えびの)建設に伴う埋蔵文化財調査 熊本県文化財調査報告第132集	"	"
208. 赤池永田遺跡 九州縦貫自動車道(人吉～えびの間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	熊本県教育委員会	1993
209. 柏木谷遺跡 一県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告一 熊本県文化財調査報告第134集	"	"
210. 岡田 一県営菊池うてな台地区畑地帯総合改善事業に伴う埋蔵文化財発掘調査一 熊本県文化財調査報告第136集	"	"
211. 大原天子遺跡 川辺川農業水利事業「大原団地」造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 熊本県文化財調査報告第138集	"	"
212. 八反田A遺跡・B遺跡・八反畑遺跡 生埴第3区農業基盤整備事業に伴う文化財調査) 西舎志町文化財調査報告第3集	西舎志町教育委員会	1993
大分県		
213. 植田市遺跡Ⅴ 七瀬川河川改修工事に伴う発掘調査概報	大分県教育委員会	1992
214. 府内城三ノ丸遺跡 一 大分県共同庁舎(仮称)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一	"	1993
215. 大分市埋蔵文化財調査年報3 平成3年度	大分市教育委員会	1992
216. 永添遺跡・中津城跡 御用屋敷跡・ホヤ池窯跡 1993年度中津地区遺跡群発掘調査概報 中津市文化財調査報告書第13集	中津市教育委員会	1993
217. 原遺跡 株式会社ゼエム工場建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 中津市文化財調査報告書第14集	"	"
218. 史跡宇佐神宮境内保存管理計画書	宇佐市教育委員会	1993
219. 小野・大蔵遺跡 安岐町文化財調査報告書第3集	安岐町教育委員会	1993
220. 佐賀関町街道	佐賀関町教育委員会	1993
221. 大野地区遺跡群発掘調査概報 二本木遺跡M地区・上園遺跡・光昌寺遺跡B地区・岩上遺跡・夏足原遺跡Q地区	大野町教育委員会	1993
222. 小田山城跡関連遺跡第1次調査報告書	弥生町教育委員会	1993
223. 豊後国都甲荘3 国東半島荘園村落遺跡詳細分布調査概報 1990	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1991
224. 宇佐国東の寺院と文化財 宇佐国東地域寺院関係歴史資料調査報告書 大分県立宇佐風土記の丘歴史資料館報告書第8集	"	"
225. 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館研究紀要	"	1993
226. 第12回特別展示図録 「豊後の博学 後藤碩園」	大分県歴史資料館	1993
227. 別府大学紀要 第34号	別府大学	1993
228. アジア歴史文化研究所報 第11号	別府大学アジア歴史文化研究所	1993
宮崎県		
229. 江面城跡 加草～江田橋線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 門川町文化財調査報告書第1集	門川町教育委員会	1993

平成6年度(1994年度)
日田市埋蔵文化財年報

発行日 平成8年3月31日
編集 日田市教育委員会
発行 〒877
大分県日田市田島2-6-1
TEL.0973-23-3111
印刷 尾花印刷有限公司